

2026 年 10 月 7 日

各 位

上場会社名	株式会社 エヌ・ピー・シー
代表者	代表取締役社長 伊藤 雅文
(コード番号	6255)
問合せ先責任者	専務取締役 廣澤 一夫
(TEL	03-6240-1206)

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、中期経営計画について決議しましたので、下記の通りお知らせします。

記

1. 中期経営計画の策定の目的

当社を取り巻く事業環境が好転し、中期的な業績の見通しが立てられるようになったことを受け、改めて中期経営計画を策定いたしました。本計画に示すように、業績の安定化と持続的な成長を両立することで、資本コストを低減して株式市場からの適正な評価を獲得するとともに、積極的な投資と安定的な株主還元に取り組んでまいります。

2. 対象期間

2027 年 8 月期から 2031 年 8 月期までの 5 年間

3. 内容

詳細は添付資料をご覧ください。

以 上

中期経営計画

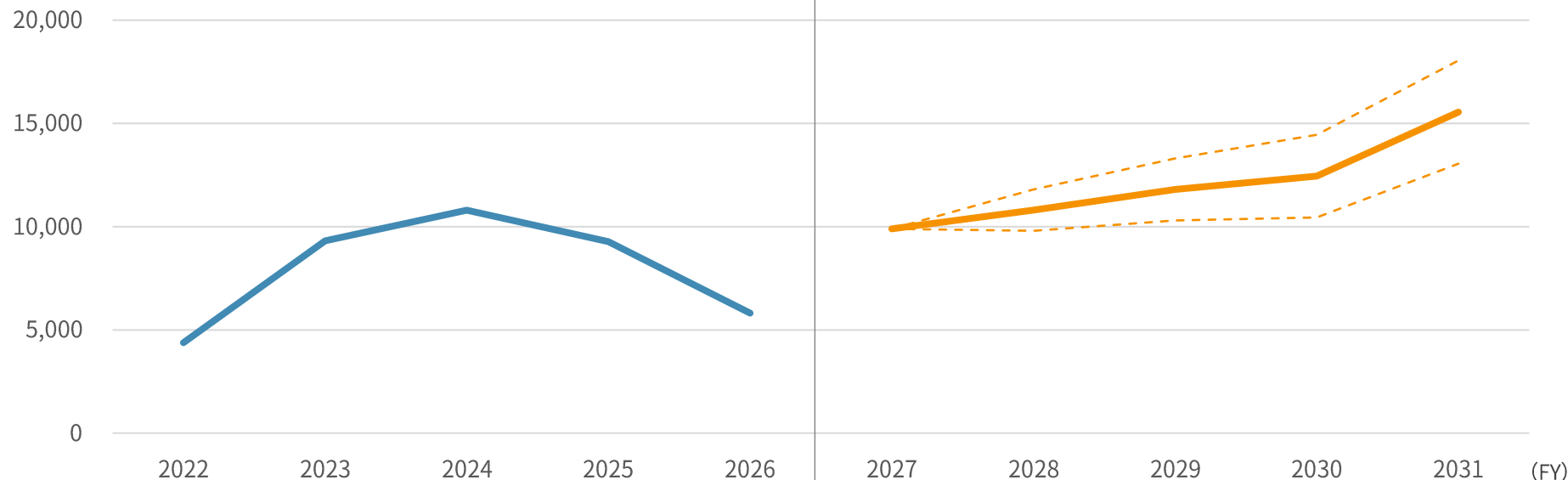
方針

変動が大きい業績を安定化させ、持続成長できる事業基盤を確立

売上高
(百万円)

現在の姿

目指すべき姿



業績の変動大

- 短期業績の見通しが不透明
- 株主資本コストに影響
- 投資や株主還元に踏み切りにくい

業績の安定化と持続的な成長を両立

- 株主資本コストの低減
- 株式市場からの適正な評価の獲得
- 積極的な投資と安定的な株主還元

課題とKPI

現在の課題

テーマ／取り組み

KPI／目標

売上・利益
の変動性

成長市場での事業拡大（安定的な成長）：
ペロブスカイト、太陽光パネルリサイクル
への取り組み強化

年平均売上高成長率：
10%以上

特定顧客への偏重解消：
顧客・市場ポートフォリオの多様化

FS社以外の売上高比率：
60%以上

収益性の安定化：
スタンダード製品及びストックビジネスの強化

売上総利益率：
30%程度を維持

投資規模の拡大：
生産能力・技術力の向上と経営基盤の強化

投資額：
5年間で約40億円

キャッシュ
アロケーション

株主価値の向上：
株主還元の強化および安定化

配当性向：25%
(下限：DOE2%)

事業における取り組み

成長市場での事業拡大

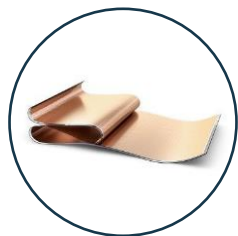
当社の技術と実績

- ・ 薄膜太陽電池製造装置での豊富な実績・技術
- ・ 太陽光パネルリサイクルの独自技術
- ・ 多岐に渡る仕様に対応できる技術力・生産能力

×

成長市場

- ・ First Solar社および国内太陽電池メーカーへのペロブスカイト太陽電池向け製造装置の提供
- ・ 太陽光パネルリサイクル装置の販売



ペロブスカイト
太陽電池製造装置



太陽光パネル
リサイクル装置

顧客・市場ポートフォリオの多様化

得意とする太陽電池業界以外にも事業を拡大

- ・ 好調な電子部品業界および半導体関連業界の取り込み
- ・ 実績が増えている自動車業界での更なる拡大
- ・ 廃棄物処理業界に向けた省力化・自動化装置の提供等

スタンダード製品の拡大

自社製品のラインナップの増加 × 製品力の向上



真空ラミネーター



太陽光パネル
リサイクル装置



廃棄物自動化装置

中期経営計画 – 目標

5 年間の中期業績見通し

(単位：百万円)

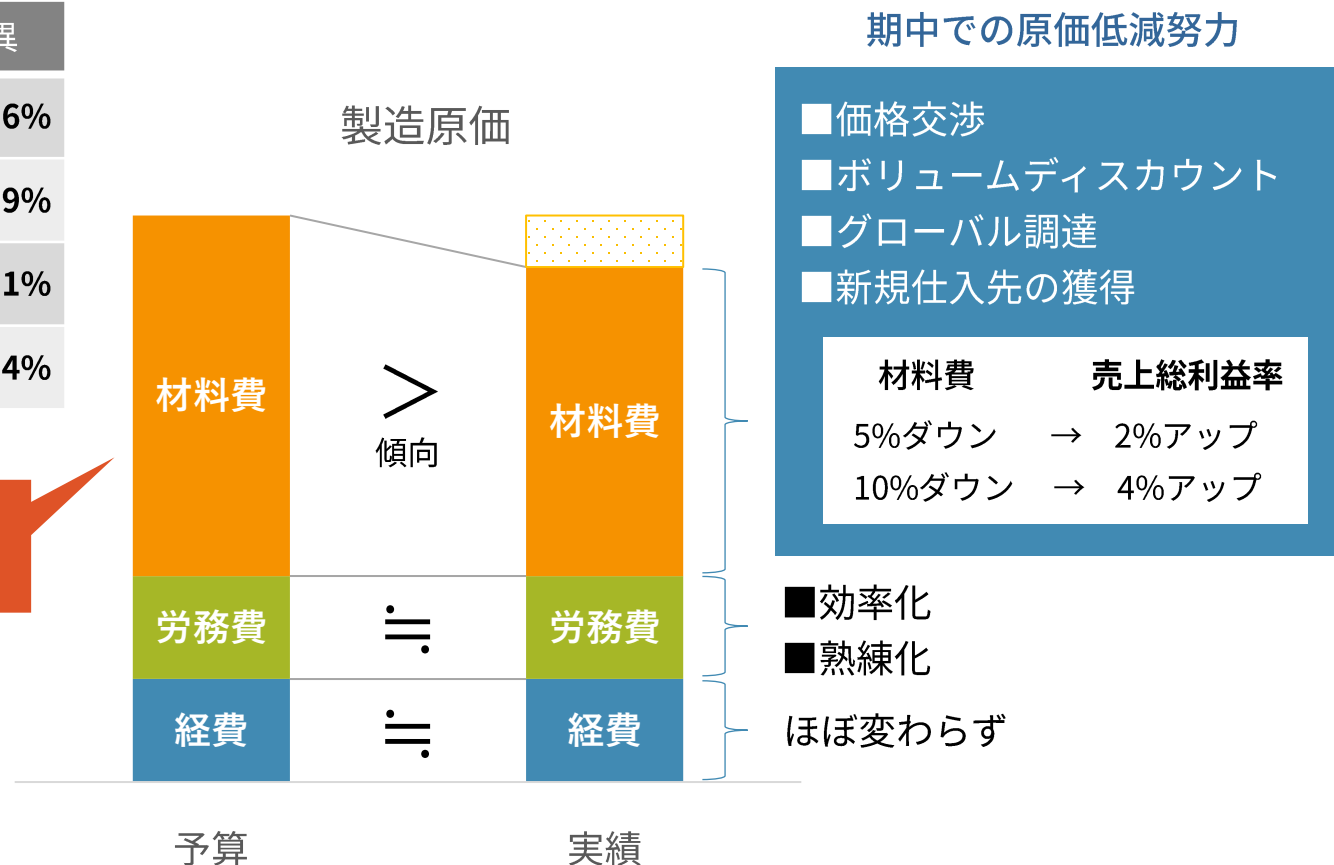
	FY2027 E	FY2028 E	FY2029 E	FY2030 E	FY2031 E	5年合計	5年平均
売上高	9,895	10,800	11,800	12,450	15,550	60,495	12,099
太陽電池製造装置	5,837	4,700	6,000	8,000	9,800	34,337	6,867
太陽光パネル リサイクル装置	831	1,500	2,000	2,400	3,000	9,731	1,946
FA装置	2,384	3,800	3,000	1,200	1,700	12,084	2,417
部品	717	600	600	650	850	3,417	683
環境関連サービス	125	200	200	200	200	925	185
売上総利益率	27.4%	28.6%	29.1%	31.0%	31.0%	29.6%	29.6%
販売管理費	1,329	1,380	1,420	1,480	1,530	7,139	1,428
営業利益	1,380	1,714	2,009	2,385	3,295	10,783	2,156
当期純利益	826	1,183	1,386	1,646	2,274	7,315	1,463
ROE	7.5%	10.0%	10.8%	11.7%	14.5%		10.9%

利益の予算と実績の差異が発生する主な要因

(参考)売上総利益率の予実比較

	予算	実績	差異
FY2023	14.3%	20.9%	6.6%
FY2024	25.2%	33.1%	7.9%
FY2025	29.3%	33.4%	4.1%
FY2026	24.4%	34.8%	10.4%

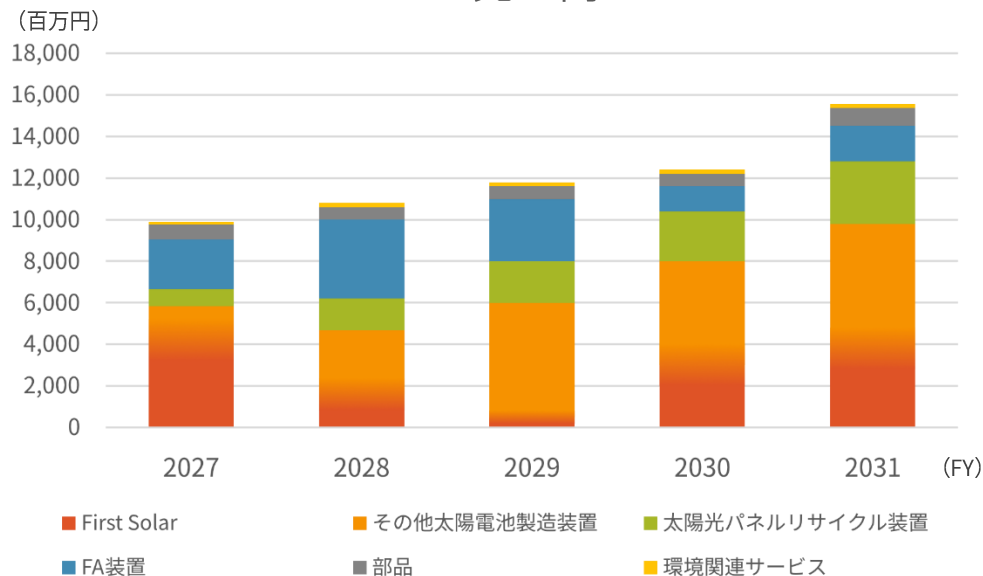
合理的な見込み金額
(価格交渉前・概算段階含む)



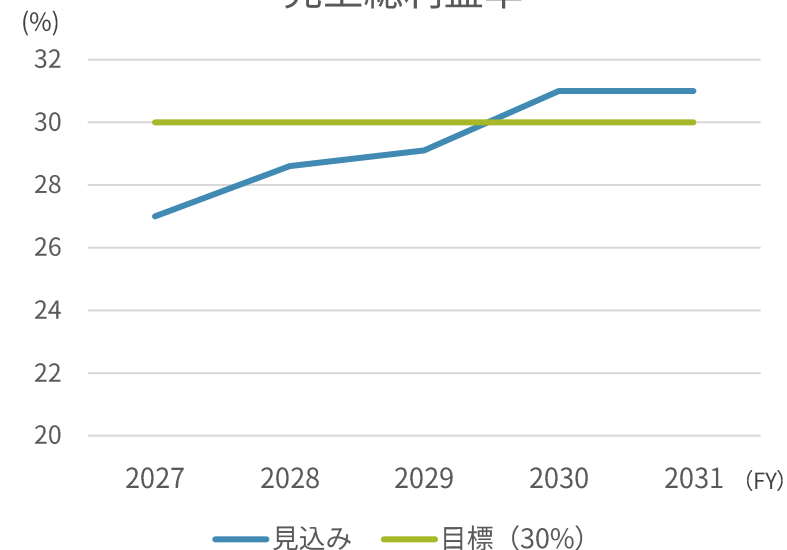
売上総利益率は予想を上振れる傾向があり、今期も原価低減に向けた取り組みを継続する

KPIの目標に対する見込みおよび想定される財務指標

売上高



売上総利益率



年平均売上高成長率

目標 : 10%以上
見込み : 12.0%

FS社以外の売上高比率

目標 : 60%以上
見込み : 70~75%

売上総利益率

目標 : 30%程度を維持
見込み : 29.6% (平均)

KPI達成により

想定される財務指標



- ✓ 5年間の合計営業CF : 73億円
- ✓ 5年間の平均ROE : 10.9%
- ✓ 5年目で過去最高益の獲得 (営業利益30億円以上)

First Solarの動向

2025年

2027年

既存製品の生産

同じ設備を全工場に水平展開

当社は新規装置の提供、
装置改造等を実施

次期製品（ペロブスカイト関連製品）の開発

ペロブスカイト太陽電池メーカー買収
Oxford PVとの特許ライセンス契約 等

当社は開発用装置、
パイロット向け装置等の提供

新製品の量産

開発の目途が立った後、製品化へ

前工程を含めた新規設備の提供、
既存設備の改造等
当社にとって大型案件獲得の機会

衛星用太陽電池市場

- ・ 2026年8月期に衛星用太陽電池製造装置を国内既存顧客よりリピート受注
- ・ 当社顧客の太陽電池メーカーは、ハイエンドでオーダーメイドの装置を必要とする太陽電池を製造
（当社の強みである領域）
- ・ 当社顧客が太陽電池を欧米の衛星メーカーへ提供
- ・ 今後も市場は欧米を中心として拡大していく見込みであり、受注に対する市場環境は良好

ペロブスカイトの国内装置市場

多くの企業が経済産業省関連(NEDO等)の支援を活用
進捗段階に違いはあるが各社開発が進行中

量産に 向けた段階	積水ソーラーフィルム、パナソニック等
開発の段階	東芝、アイシン、シャープ、長州産業、 カネカ、リコー、トヨタ自動車、 エネコートテクノロジーズ、等

将来の国内生産能力に関する定量的目安

日本政府目標
(2030年時点)

1GW

各社公表情報合計
(当社推計)

3GW前後
装置ニーズポテンシャル

※現状量産には至っておらず、装置ニーズはこれから

当社の実績や取り組み

前工程（インクジェット塗布装置）

- ・ 蒸着法やスピンコート法に代わる成膜技術として、インクジェット方式への注目度が上昇
- ・ 資本提携したGosan Techの高精度な装置を提供（既に3.5億円規模の受注獲得済み）
- ・ 複数の国内企業と開発用装置として商談継続中

後工程（組立、搬送、検査装置等）

- ・ 薄膜系太陽電池の後工程における豊富な実績
- ・ 国内企業からはほぼ引き合いを受け、複数社に装置を納入済み
- ・ 2026年8月期に大型案件の実績あり

今後5年間
売上見込み



国内

160億円

海外

110億円

市場規模からの販売金額試算

太陽光パネルリサイクル装置は、景気変動や個別の顧客動向に左右されない『**不可避の需要**』
エヌ・ピー・シーの強みを活かし、リーディングカンパニーとして市場を牽引していく

唯一無二の特許技術

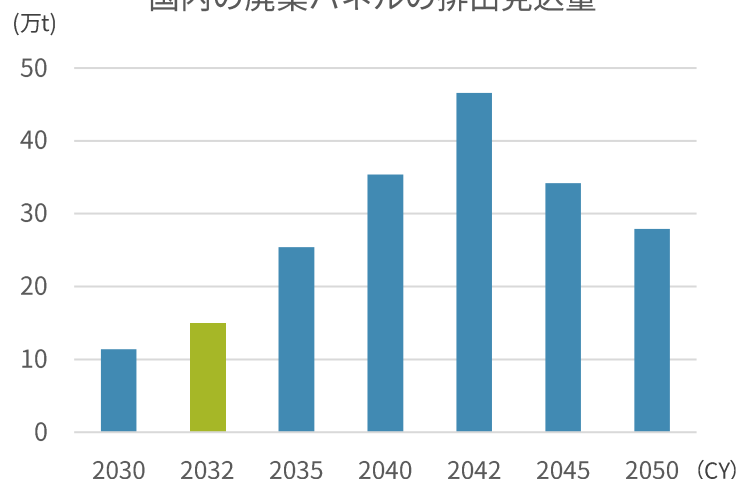
- ・ホットナイフ分離法®/ブラシかきとり法™の関連特許
- ・当社の技術でカバーガラスの水平リサイクルが実現
→水平リサイクルが必須となる再資源化高度化法の認定が受けられ、**業界のスタンダードとなりつつある**

不可避免的に発生するパネルリサイクルの需要

- ・リサイクル処理に関する法制度化（2027年末までに施行）
- ・リパワリング（性能が高いパネルへの置き換え）によるパネルの排出が先行
- ・FIT終了に向けた排出パネルの増加

×

国内の廃棄パネルの排出見込量



(出所：経済産業省「太陽光パネルのリサイクルを推進(2026.7.15)」を基に自社作成)

売上見込みの算出条件

外的要因

- ・2032年排出量（約15万トン）
- ・リサイクル対象のパネル比率
- ・顧客での装置稼働率 等

×

内的要因

- ・処理能力
- ・市場シェア
- ・装置価格 等

今後5年間
売上見込み



国内

85億円

海外

15億円

中期経営計画 – 太陽光パネルリサイクル装置

太陽光パネルリサイクル装置のラインナップと協力企業との入口・出口の確保

太陽光発電事業者
などと入口部分
を構築中



出口戦略（ガラス・金属リサイクル）の構築により装置販売拡大

ジャンクション
ボックス



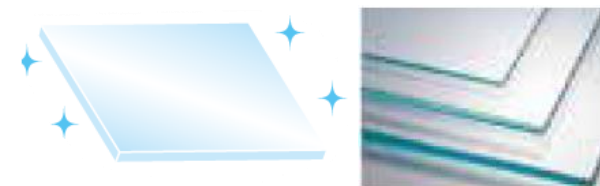
アルミフレーム

神鋼商事等にて
高価リサイクル



セル/EVAシート

ガラスの付着が無い
ため
DOWAにて高効率リサイクル



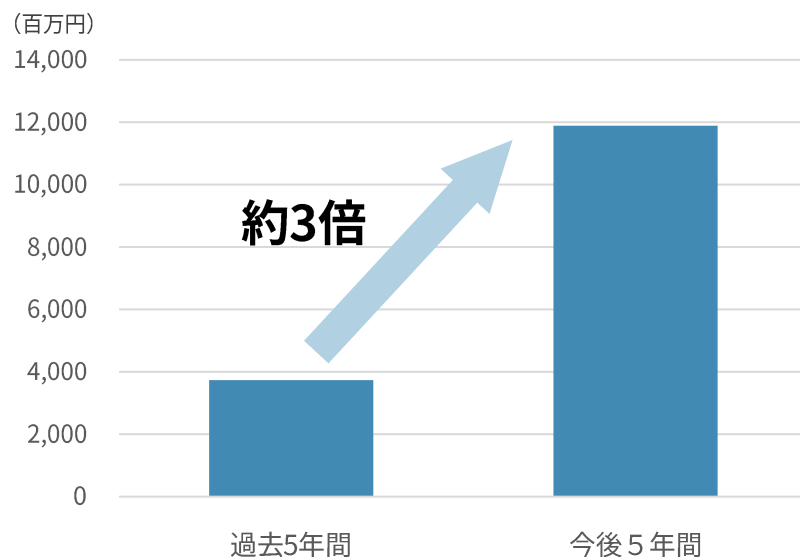
EVA除去ガラス

AGC・セントラル硝子
にて建築用ガラスへ水平リサイクル

オーダーメイドFA装置

- ・既存顧客の国内電子部品メーカーが投資を再開
AI・半導体市場の成長が後押しとなり、今後数年
継続見込み（2026年8月期に一部受注済み）
- ・自動車業界の案件で複数社と実績が増えている
引き合いが増加しており、今後も拡大していく

FA装置売上高（スタンダード装置を含む）



スタンダード装置

スタンダード装置のラインナップ拡大と販売強化

真空ラミネーター



- ・ペロブスカイトを含め、
様々な業界のR&Dで使用

廃棄物自動化装置



（上記画像は
ガラス瓶の選別装置）

- ・AIを用いた廃棄物の選別装置で
実績有
- ・廃棄物処理業界において
自動化・省人化ニーズ高
- ・他社よりも低コストで
導入可能なため優位性あり
- ・今後は選別装置以外の廃棄物
処理業界向け自動化装置にも
取り組む

部品

- ・ First Solar社向けの部品販売は横ばいの想定（米国への生産体制集約による在庫管理状況の変化）
- ・ 太陽光パネルリサイクル装置の販売増加に伴い、消耗品である刃物等の販売が増加見込み
- ・ 通常国内企業は装置メーカーから部品を購入せず自社調達の傾向が強く、拡大余地は限定的

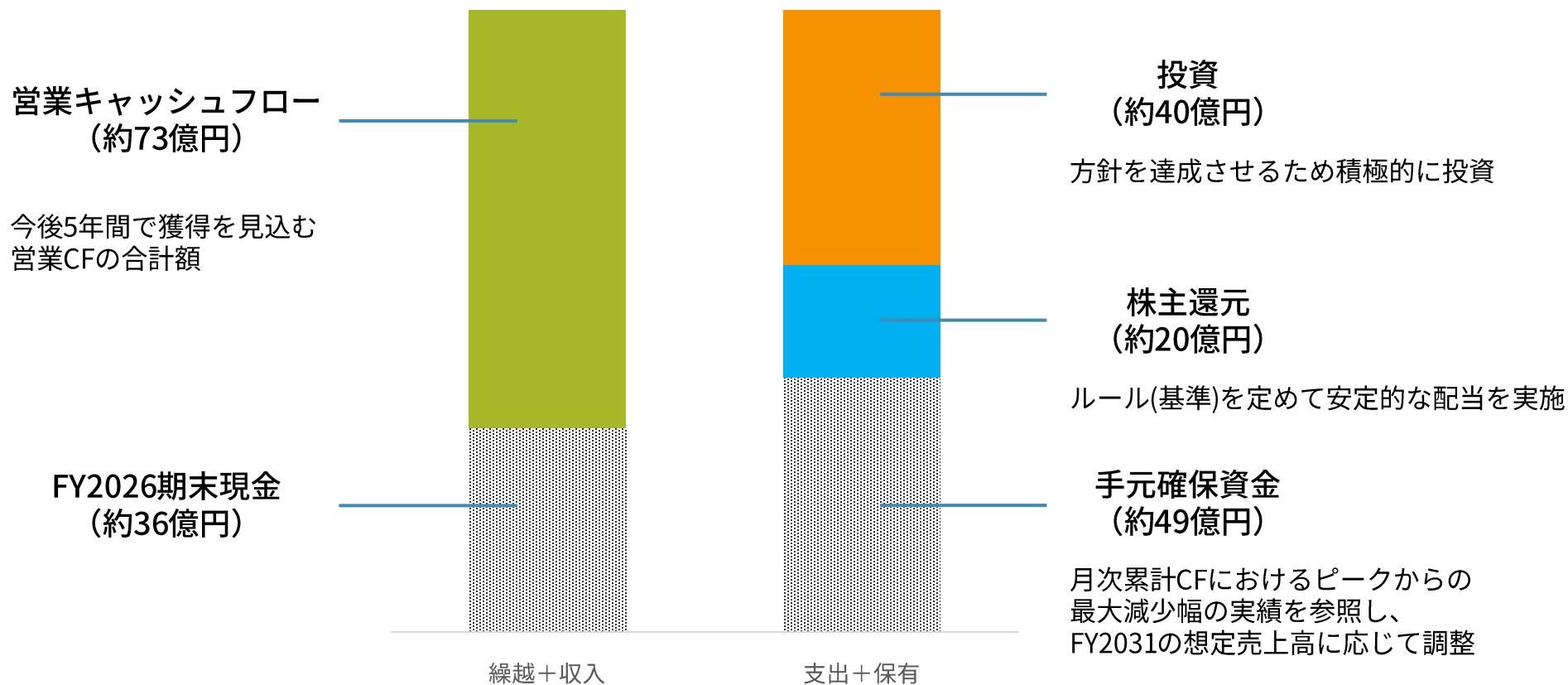
環境関連サービス

トータルは現状を維持、太陽光パネルリサイクル（松山工場での中間処理）を成長させる

- ・ 太陽光発電所検査サービス：減少
→ 竣工検査の減少が想定されることから検査サービスは縮小を見込む
- ・ 太陽光パネルのリユース：減少
→ 中国製の新品パネルが安価で導入可能なことからリユースは縮小を見込む
- ・ 太陽光パネルのリサイクル（中間処理）：増加
→ 大規模発電所へのリサイクル計画提出義務化やリパワリング案件増加等の影響で
太陽光パネル排出量増加の見込み
そのことから、当社松山工場における中間処理数を増加させる
- ・ 植物工場ビジネス：微増
→ インフレに伴う値上げや生産量を増やす取り組みを実施、知名度向上や採用活動にも活かす

今後5年間のキャッシュアロケーション

持続的な成長への積極投資と株主還元の推進



投資

資金を3つの領域に配分し、将来の売上・供給力・経営基盤を強化

1

売上を増加させ、利益率を維持する

- ・ R&D（製品力強化、スタンダード製品開発、コア装置の内製化）
- ・ マーケティングの強化
- ・ 仕入サプライチェーンの整理、グローバル展開
- ・ 新市場に対する戦略的投資やM&A

投資額

10億～15億

2

生産能力・供給能力を引き上げる

- ・ 同業の自動機メーカー、金属加工関連企業等のM&A
- ・ 組立委託できる協力工場のネットワーク強化
- ・ 松山工場の設備投資

投資額

20億～25億

3

成長を支えるための経営基盤を整える

- ・ 人的リソースへの投資
- ・ インフラ及びITの強化、整備

投資額

5億～10億

株主還元

業績連動と安定性を両立させた株主還元

配当性向 25%を基本方針とし、DOE 2% 程度を下限値とした配当政策を実施

